

2006年5月26日

各位

## 日本ゼオン 次世代研究棟 10号館竣工

日本ゼオン株式会社(社長:古河 直純)は、独創的技術による研究開発の強化と次世代事業の創出による事業拡大をはかるため、かねてより総合開発センター(神奈川県川崎市)内に新研究棟 10号館等の建設を進めていたが、このほど完成し5月26日竣工式を行った。一連の事業は、神奈川県の「インベスト神奈川」による助成を受けており、世界をリードし、更に世界に向け発信する拠点づくりを目指している。

日本ゼオンは、新規事業の拡大を図るため高機能樹脂ZEONEX<sup>®</sup>(ゼオネックス)、ZEONOR<sup>®</sup>(ゼオノア)、精密成形品の液晶用光学フィルム(製品名 ゼオノアフィルム<sup>®</sup>)・拡散板、先端半導体材料であるLow-k材料(製品名 ゼオマック<sup>®</sup>)等を開発、上市するとともに次世代事業創出のために研究開発設備の充実を図ってきた。しかし、研究領域の拡大や高度化にともない新しい研究施設の必要性が生じてきたため、昨年3月、今回の10号館建設に着手したものである。

この10号館では、日本ゼオンが次世代事業と位置づけている半導体用材料、記録用材料、液晶用表示材料、二次電池用などのエネルギー材料および通信用材料の五つの事業分野の研究開発とこれらの材料開発を支えるための基盤である評価技術ならびに開発された新材料の精密加工技術も開発する計画である。

また今回は、10号館と併せて総合的にエネルギーを管理する設備管理棟も建設した。これは、将来に亘って日本ゼオンが川崎地区で研究開発を行っていくため、総合開発センター内で使用するエネルギー、ユーティリティの管理を一元化し、省資源・省エネルギーの徹底を推進する施設となる。更に日本ゼオンでは、今回の10号館の建設にあわせて隣接する川崎工場の排水処理施設、大気等の環境関連施設の増強と更新に着手しており、全計画の完了は07年度になる。

日本ゼオンでは、既に全館クリーンルームの研究棟9号館を同敷地内に新設し、05年度には高岡工場内(富山県高岡市)に精密光学研究所を新設、拡充を図るとともに米沢工場内(山形県米沢市)にも化学品関係の研究施設を建設した。今回の10号館の完成により、独創的な世界一の技術で次世代事業を創出するための盤石な研究開発体制が整備されたと考えている。

(新研究棟 10号館等の概要)

所在地:神奈川県川崎市川崎区夜光1-2-1

延べ面積等

10号館:約10,100m<sup>2</sup>、地上8階、PH1階

新設備管理棟等:880m<sup>2</sup>、地下1階、地上2階

お問い合わせ先

日本ゼオン株式会社

広報室

電話 03-3216-2747

